

2017年度 第5回総括班会議 議事録

日 時：2017年9月30日（土）14時-18時

場 所：東京外国語大学 本郷サテライト 4階会議室

出席者：石戸、酒井、末近、松永、山尾、落合、渥美、鈴木（恵）、松尾、水野、高垣、後藤、帯谷、岩下、石田（淳）、石田（憲）、宮地、松本、久保、ヘーゼルハウス、横田、計21名、押尾（特任研究員）

議事次第

14:00～17:30 全体研究会

石田（憲）、松本、渥美、落合各分担者による研究報告（各自報告25分、質疑応答25分）

17:20～18:00 総括班会議

議題1 グローバル関係学学理構築のための作業について

7月に実施した全体研究会で、酒井・松永・久保による「グローバル関係学の学問的枠組み程度」の試みについて、分担者で引き続き議論を行った。

その上で、「グローバル関係学」の共通の着目点・研究対象・方法面での可能性について、自身の「グローバル関係学」における研究は、いかなる「出来事」を対象とするか、自身の「グローバル関係学」ではいかなる「主体間の単線的ではない」関係性を解明することになるか、どのような理論・分析方法を用いるか、についてアンケートを行い、認識のすり合わせを引き続き行っていくこととする。

議題2 来年度国際会議の開催地とテーマについて

開催地をセルビアとし、同地に知見のある久保慶一氏（国際活動支援班分担者）を中心に進める。テーマは、紛争とする。

報告事項

- 来年九月に実施される中間評価について、領域代表から全体の分担者に対して、当初提出した計画書で提起したことがきちんと行われたかが問われることになる、中間評価の結果によっては、計画研究の見直しなどの提案が出る可能性もある、くれぐれも留意して研究を進めるように、との説明があった。また、一年目、二年目の成果としては、全体研究会などを通じて、グローバル関係学の枠組みについての共通認識を確立し、それぞれがその枠組みにのっとって研究を進めていることをアピールしたい、との発言が、領域代表からあった。
- シンガポールの国際会議について、準備経過報告が領域代表からなされた。シンガポール大学側から、報告者、司会者に対して報告内容や写真、所属機関情報、渡航予定など、データの提出が求められているので、航空券などについては各自手配し、10月16日までに出入国日程を開催校に提出するよう、指導が行われた。また、12月初めまでには、事前のリハーサルの発表会を実施する予定。